



米子市埋蔵文化財センターたより



第20号

2016年3月

米子城の謎の解明にむけて その3 - 八幡台で築城期の石垣を確認 -

平成 27 年度「米子城跡保存整備事業」の発掘調査で、トレンチ9か所と石垣確認調査を行いました。このうち、「八幡台」では二つの大きな発見がありました。調査の結果、整地盛土による造成面全体に石材加工時の大量の石破片や、大型の切石などが検出されました。面上からは幕末頃の磁器碗の破片や瓦が出土しました。瓦には嘉永癸丑（嘉永6年〔1853年〕）の年号が刻印されていることから、幕末に鹿島家が行った四重櫓の補修時のものであると考えられます。

「鹿島家文書」によれば、米子城の補修工事は、嘉永5年から7年にかけて行われ、陰田石取り場の切石を深浦から荷揚げして城山内の「八幡台」まで運び上げ、そこで加工したうえで天守に積み上げたことが記されています。また、藩の瓦師松原氏の日記には嘉永6年に瓦を焼いたという記述があります。さらに、幕末に描かれた「米子御城平面図」には、今回の発掘調査地点である鉄門の南東付近に「八幡台」の記載があることから、今回発見された遺構は「八幡台」の作業場であることが判明しました。これは、発掘調査の成果が、絵図・文献資料と合致した貴重な事例です。

さらに、この幕末の作業場の盛土下部に埋もれた野面積の石垣が発見されました。積まれた石は自然石に近い石を使用しているため、米子城築城当初の石垣であると考えられます。江戸期の絵図にはこの郭は描かれていないので、新発見の郭ということになります。この郭の規模や形状については幕末の整地土に覆われており詳細は不明ですが、飯山や深浦湾を見下ろす絶好の場所であり、米子城南東側の防御上、築城初期には非常に重要な郭だったと考えられます。このように、既存の絵図に描かれない郭や石垣が発見されたことは、米子城の築城や性格を解明する上で非常に重要な成果でした。（米子市教委 濱野）



左 「嘉永癸丑」刻印の瓦



右 八幡台で発見された石垣

整 理 作 業 情 報

－伯楽塚遺跡の整理作業－

整理室では平成 23 年に実施した伯耆町坂長の「伯楽塚遺跡」「伯楽塚古墳群」発掘調査の整理と報告書作成作業を進めてきました。「伯楽塚遺跡」からは、縄文時代、古墳時代、奈良時代、現代の遺構が発見され、特に縄文時代は多数の縄文早期の土器が検出されて注目されました。これらの土器は、楕円文や山形文、沈線紋、刺突文をつけた押型文土器で、早期後半の「穂谷式」と呼ばれている形式の土器です。中国地方では類例の少ない貴重な資料です。

また、伯楽塚古墳群は古墳時代中期末から後期初頭（5 世紀末～6 世紀初頭）の古墳群で、その時期の典型的な土師器・須恵器が出土しています。（佐伯）



穂谷式の縄文土器



伯楽塚古墳群出土の土師器・須恵器

整 理 室 た よ り

米子市埋蔵文化財センター収蔵考古資料の整理 四日市町遺跡の玉作関係資料

1990 年（平成 2）、米子高島屋駐車場ビル建設に伴い発掘調査された四日市町遺跡資料の再整理を実施し、玉作関係資料が確認されました。

四日市町遺跡は、旧市街地の内浜砂丘に立地する弥生時代前期後半から中期中葉の時期の遺跡です。発見された河川内に木製品を造るための水漬施設と製作途中の木製品が発見されており、木器作りをしていたことが知られていました。

今回の再整理で、緑色凝灰岩の石核や扁平板、剥片などの玉作関係遺物が新たに確認されており、四日市町遺跡では、玉作りも行っていたことが判明しました。（小原）



玉作関係遺物（緑色凝灰岩の石核・扁平板）

井手挟3号墳は、米子市淀江町宇田川にあった古墳時代中期の長さ29mの造出し付き円墳です。調査時には墳丘はすでに削られて埋葬施設は残っていませんでしたが、古墳の周溝から数多くの形象埴輪が発見され注目されました。

出土埴輪は、円筒埴輪と形象の楯持人、鹿、水鳥、鶏、家など多種あり、古墳の守りや葬儀の祀りの様子を表していると考えられます。中でも楯持人埴輪は冠を被り入れ墨をして顎髭を生やした人物が、鋸歯文で飾った楯を持った勇壮な姿です。ほかに髻を結った楯持人や鹿、水鳥の親子の埴輪も出土しています。(小原)



井手挟3号墳楯持人埴輪

コラムー平安時代を掘る

今在家下井ノ上遺跡は、米子市今在家の国道9号米子バイパスと米子自動車道のジャンクション改良工事伴って2001年に発掘調査されました。

これまで日野川が貫流する箕蚊屋平野域では遺跡があまり知られておらず、この遺跡が平野域に於ける初めての調査となりました。遺跡からは掘立柱建物跡、土坑、溝、柱穴、集石、自然河川が確認され、弥生時代から平安時代の土器や鉄滓、フイゴの羽口、墨書土器などが検出されています。

主に古墳時代と奈良～平安時代の集落が存在していたと考えられる遺跡です。(小原)

(写真 上 溝、柱穴遺構 下 集石と土器)

ー今在家下井ノ上遺跡ー



センター・資料館日誌

- 1月 8日 上淀白鳳の丘展示館・長谷川氏が淀江出土鉄滓資料調査で来館。
- 1月 12日 琴浦町教育委員会主事が近世遺物の調査で来館された。
- 1月 19日 鳥取県立博物館・大嶋氏が借用資料の返却で来館された。
- 1月 22日 よなごの宝 88 選実行委員が資料調査で来館。
- 1月 23日 米子市・共催事業「米子城シンポジウム・隠れたる名城 米子城」が開催された。



会場風景

- 1月 28日 第2回鳥取県文化財保護行政担当者会に出席した。
- 2月 10日 四日市町遺跡出土の石器鑑定を受ける為、鳥取県埋文センターへ出張
- 2月 17日 日南鍵掛峠道路の調査協議で日南町へ出張した。
- 2月 23日 島根大学岩本准教授がススコゲ土器調査で来館された。
- 3月 1日 古代出雲歴史博物館学芸員が借用資料返却に来館された。
- 3月 6日 米子城跡ガイドウォークか雨で開催中止となった。

- 3月 13日 中世墓研究会が米子で開催され、埋文センターの木製塔婆等の見学で来館された。
- 3月 19日 米子城跡発掘調査の現地説明会が開催された。



米子城跡発掘調査現地説明会

- 3月 22日 車尾公民館へ出前講座「車尾の原始古代・中世について」を講演した。
- 3月 23日 米子市歴史館運営委員会が開催され、平成27年度の業務報告を行った。

編集後記

福市遺跡の桜の蕾もふくらみ、開花を迎える頃となりました。東北大震災から早5年が経ちましたが、被災地復興はなかなか進んでいないようです。でも東北にも毎年、春はやってきます。そして桜も咲きます。頑張れ、花咲け東北!

発行日 平成28年3月28日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp